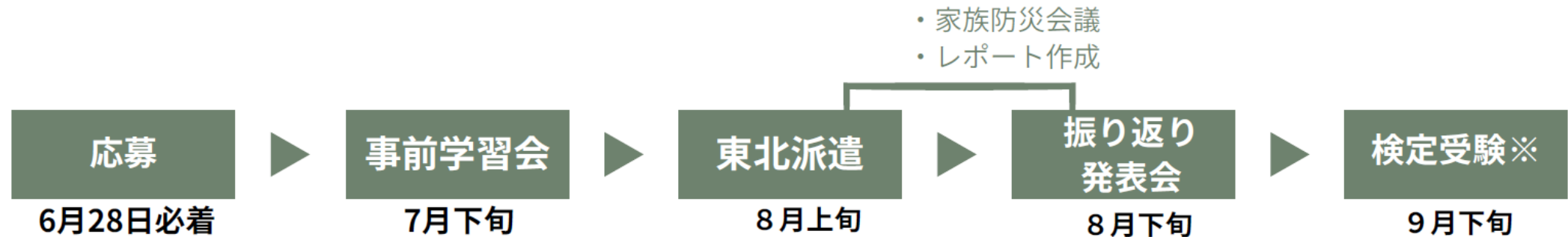


高知新聞 防災プロジェクト

「いのぐ」

いのぐ特派員2024年の活動レポート

2024年度の活動スケジュール



※一連のプログラムの中で、ジュニア防災検定 (<https://www.jbk.jp.net/>) にも挑戦していただきます

■活動内容

- ・事前学習会 : 7月28日(日)、29日(月)
- ・東日本大震災被災地への訪問 : 8月2日(金)~4日(日)
- ・振り返り発表会 8月25日(日) 10時~12時
- ・ジュニア防災検定(筆記試験)／応急講習 9月28日(土)13時~

◆募集記事

2024年5月11日(土) 高知新聞朝刊

「防災いのぐ特派員」募集要項

防災いのぐ特派員の活動内容と募集要項は次の通りです。

(1面参照)

【活動内容と期間】①2024年7月28日(日)、29日(月)のオリエンテーション、事前学習会に参加②8月2日(金)～4日(日)の東日本大震災被災地への訪問③8月末に振り返り発表会を行い、紙面でも紹介する

【定員】6人

※応募者多数の場合は募集要項の書面、またオンライン面談で選考します

【応募資格】高知県内の中学校に在籍し、7月のオリエンテーション・事前学習会、8月の東日本大震災被災地への訪問、8月末の振り返り発表会

に参加できること

【応募方法】詳細は高知新聞PLUSサイトをご確認ください(QRコードからアクセスできます)

①サイトの応募フォームから入力

②応募用紙を郵送

※①②とも申込書と1200字程度の志望動機の提出を必須とします。応募フォームへの入力、または所定の用紙をダウンロードして郵送してください

【締め切り】6月28日(金)必着

※応募者多数の場合、選考の実施概要をお伝えします

【応募・問い合わせ先】〒780-8572 高知市本町4丁目1-24、高知新聞社経営企画部「いのぐ」係(088・821・6555＝平日午前9時～午後5時)



「防災いのぐ特派員」募集

県内中学生対象

東日本大震災被災地へ派遣

高知新聞防災プロジェクト

いのぐ

高知新聞社は、被災地の現状や地震に対する備え、いざという時のとるべき行動を深く知ってもらうため、高知県内の中学生を対象に「防災いのぐ特派員」を募集します。

高知新聞防災プロジェクト「いのぐ」の一環。夏休みの東日本大震災被災地への派遣を中心に活動し、紙面などレポートする予定です。一連の活動の中で「ジュニア防災検定(一般財団法人防災教育推進協会)」にも挑戦します。

活動に費用はかかりません。ご応募をお待ちしています。

(19面に募集要項)

◆募集チラシ

- ・高知県教育委員会を通じて、県下の公立中学校へメール配信(私学は高知県 文化生活部 私学・大学支援課)
- ・約200校にDMを郵送

高知新聞防災プロジェクト「いのぐ」

被災地特派員募集



6・28(金) 締切

夏休みの東日本大震災被災地(宮城県)への派遣を中心に活動する「防災いのぐ特派員」を募集します。

日程 8月2日(金)▶4日(日)
事前学習会: 2024年7月28日(日)、29日(月) = 計2日間

対象 高知県内の中学校に在籍し、7月の事前学習会および8月の被災地への訪問に参加できること

定員 5名程度

(ご応募・お問い合わせ)
高知新聞社 経営企画部「いのぐ」係
〒780-8572 高知市本町4-1-24
TEL 088-821-6555 (平日9時~17時)

日程詳細・応募要項は裏面

・家族防災会議
・レポート作成

応募 ▶ 事前学習会 ▶ 東北派遣 ▶ 振り返り発表会 ▶ 検定受験

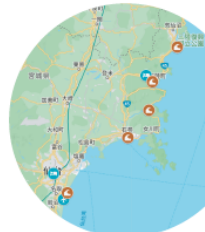
6月28日必着 ▶ 7月下旬 ▶ 8月上旬 ▶ 8月下旬 ▶ 9月下旬

※一連のプログラムの中で、ジュニア防災検定 (<https://www.jbk.jp.net/>) にも挑戦していただきます

※東北(宮城県)派遣スケジュール
8月2日(金)
高知空港⇒伊丹空港 — 伊丹空港⇒仙台空港
【石巻市】門脇小学校 ~ 【気仙沼市】気仙沼市震災遺構 気仙沼向洋高旧校舎 ~ 【南三陸町】宿泊

8月3日(土)
【南三陸町】防災庁舎 ~ 【石巻市】大川小 ~ 【名取市】備上地区 ~ 【仙台市】宿泊

8月4日(日)
【仙台市】河北新薬社
仙台空港⇒伊丹空港 — 伊丹空港⇒高知空港




※事前学習会
【★=保護者様もご参加ください】

(1日目) 2024年7月28日(日)
10:00~12:00 = オリヰツ等★
13:00~15:30 = 河北新薬社(宮城県)防災担当者によるワーク
15:30~16:00 = 被災地訪問 保護者説明会★

(2日目) 2024年7月29日(月)
10:00~12:00 = オリヰツ振り返り発表会★
13:00~15:30 = 高知大学地域協働学部 大橋先生によるワーク


会場: 高知新聞社新社 8階会議室 (高知市本町4-1-24)



【応募方法】
(1) サイトの応募フォーム
または
(2) 応募用紙を郵送(サイトからもダウンロードできます)

申し込みには、申込書と1200字程度のお志望動機が必要で、
サイトのお応募フォームから5日申し込み、
または以下をサイトからダウンロードして、高知新聞社まで郵送ください。

【提出書類】
・「防災いのぐ特派員」申込書
・「防災いのぐ特派員」志望動機(1200字程度/任意の原稿用紙でも構いません)



▲応募サイトはこさ

◆事前学習会の様子・掲載記事(7/28、29)

高知市 高知新聞防災プロジェクト いのぐ

特派員中学生 震災学ぶ

東日本大震災の被害状況を聞き、真剣な表情でメモを取る防災いのぐ特派員(高知新聞社)



県内7人 来月2〜4日宮城へ

き、8月2〜4日に宮城県を訪れる。

南海トラフ地震から命を守る本紙の防災プロジェクト「いのぐ」の一環。初日は同社防災・教育室部長の須藤宣毅さん(56)がオンラインで講義した。

須藤さんは震災発生直後の被災地の様子を記録した報道写真を使って、被害状況を解説。宮城県南三陸町に津波が押し寄せる瞬間を撮った連続写真を見せ、

「2、3分で町の風景が大きく変わった」と説明。「今は更地だが、訪れた際はここに普通の生活があったんだ」と思いを巡らせてほしい」と呼びかけた。

また災害の発生直後、通信や交通網などが途絶えることから、備えが必要だと強調した。防災無線やラジオでは聴覚障害者に情報が届かないと指摘し、指さして避難などに関する話ができる会話シートを紹介。参加者は質問者と回答者に分かれて体験した。

高知国際中2年の橋本朝良さん(14)は「障害者の人々へのケアについて、初めて知った。災害が起きた後、被災地でみんながどう生活してきたのか聞いてみたい」と意気込んでいた。

(相良平蔵)

次世代の防災リーダー育成を目指す高知新聞社の防災いのぐ特派員事業の事前研修が28日始まり、県内の中学生7人が東日本大震災の発生直後の被害状況について、河北新報社の防災担当者の説明に耳を傾けた。7人は2日間、実際に被災した語り部の体験や南海トラフ地震の被害想定を聞

◆東北被災地視察の様子・掲載記事

高知新聞防災プロジェクト

いのぐ

東日本大震災の被災地に中学生を派遣する高知新聞社の防災いのぐ特派員事業で2日、県内の生徒7人が宮城県に入り、被災した学校校舎などを見学して語り部の話を耳を傾けた。本紙の防災プロジェクト「いのぐ」の一環で、4日まで同県に滞在し、震災時の状況

被災校舎巡り津波・火災実感

県内中学生7人 宮城入り

や防災対策を学ぶ。



ジオラマを見ながら津波の被害の状況を聞く生徒たち
(宮城県石巻市門脇町4丁目)

一行はまず石巻市門脇町を訪問。地震と津波、火災の複合災害に遭った旧門脇小学校で、焼け焦げた教室などを視察した。当時校長だった鈴木洋子さん(73)は「400*の金庫があったが、津波はそれを押し流すほどのすさまじい力だった」3日間、ずっと火事だった。机の天板や黒板まで燃えた」と語った。

また被災前の町並みを再現したジオラマを見せながら津波被害を説明。「海の近くはもともと湿地帯だった。住んでいる場所がどんな所か確かめて。経緯で津波が来ないと判断してはいけない」と呼びかけ、生徒たちは真剣な表情でメモを取っていた。

気仙沼市では気仙沼向洋高校の旧校舎で教室に突っ込んだ車や、屋根が飛んだ体育館なども見学。南海中2年の広瀬志穂里さん(13)は「写真で見た被災前の教室と自分の中学校の教室はそっくりだったのに、今では何も残ってない。地震と津波をより身近に感じた」と話した。

特派員は広瀬さんのほか、嶺北中3年の佐藤灯さん(14)、城東中2年の深見陸月さん(14)、高知国際中2年の橋本朔良さん(14)、中村中2年の鈴木渚斗さん(13)、高知国際中1年の阿部日向子さん(12)、同中1年、埴田鳳紗さん(12)。7人は帰高後、本紙で体験をレポートする。

(相良平蔵)

- ①8月2日 (金)
 - 【石巻市】 門脇小学校
 - 【気仙沼市】 気仙沼向洋高旧校舎

- ②8月3日 (土)
 - 【南三陸町】 防災庁舎
 - 【石巻市】 大川小
 - 【名取市】 関上地区

- ③8月4日 (日)
 - 【仙台市】 河北新報社
 - 現地中学生との交流

高知地震新聞

津波の威力・被害痛感 中学生特派員 宮城訪問



震災遺構見学 語り部に聞く

高知新聞朝刊「高知地震新聞」の中学生特派員が、宮城県内の被災地を訪問し、震災遺構の見学や被災者の語り部から話を聞いた。今回は、宮城県内の被災地を訪問し、震災遺構の見学や被災者の語り部から話を聞いた。今回は、宮城県内の被災地を訪問し、震災遺構の見学や被災者の語り部から話を聞いた。



昭和の惨状 伝わらず

名取市開上地区 長沼俊幸さん(61)

昭和の惨状が伝わらない。震災直後の惨状が、今の子どもたちに伝わらない。長沼俊幸さんは、震災直後の惨状を語り、子どもたちに伝えることを目指している。

助かる未来から逆算を



石巻市大田小学校 佐藤敏郎さん(60)

助かる未来から逆算を。佐藤敏郎さんは、震災直後の惨状を語り、子どもたちに伝えることを目指している。

災害 想定を超えてくる



鹿野町 渡辺賢治さん(60)

災害 想定を超えてくる。渡辺賢治さんは、震災直後の惨状を語り、子どもたちに伝えることを目指している。



宮城県の中学生「かほく防災記者」との交流会

2024年8月20日(火)
高知新聞朝刊「高知地震新聞」

◆東北被災地視察の様子・掲載記事(参加学生の振り返りレポート)

東日本大震災に学んだ夏

中学生「い」の特派員「思い新た」

高知国府中2年 橋本 朔良さん(左) 高知大城 早生 門限 大川小の震災地視察が高知から。高知大城 早生 門限 大川小の震災地視察が高知から。高知大城 早生 門限 大川小の震災地視察が高知から。

そのとき何ができたか

高知国府中2年 橋本 朔良さん(左) 高知大城 早生 門限 大川小の震災地視察が高知から。高知大城 早生 門限 大川小の震災地視察が高知から。

東日本大震災に学んだ夏

中学生「い」の特派員「思い新た」

南高中2年 広瀬 志穂里さん(左) 高知国府中2年 佐藤 灯さん(右) 高知大城 早生 門限 大川小の震災地視察が高知から。高知大城 早生 門限 大川小の震災地視察が高知から。

見てきたことを行動に

高知国府中2年 佐藤 灯さん(右) 高知大城 早生 門限 大川小の震災地視察が高知から。高知大城 早生 門限 大川小の震災地視察が高知から。

東日本大震災に学んだ夏

中学生「い」の特派員「思い新た」

中村中2年 鈴木 清斗さん(右) 高知国府中1年 堀田 風紗さん(左) 高知大城 早生 門限 大川小の震災地視察が高知から。高知大城 早生 門限 大川小の震災地視察が高知から。

自分のこと考えて

高知国府中1年 堀田 風紗さん(左) 高知大城 早生 門限 大川小の震災地視察が高知から。高知大城 早生 門限 大川小の震災地視察が高知から。

東日本大震災に学んだ夏

中学生「い」の特派員「思い新た」

高知国府中1年 阿部 日向子さん(左) 高知大城 早生 門限 大川小の震災地視察が高知から。高知大城 早生 門限 大川小の震災地視察が高知から。

学び生かして生かす

高知国府中1年 阿部 日向子さん(左) 高知大城 早生 門限 大川小の震災地視察が高知から。高知大城 早生 門限 大川小の震災地視察が高知から。

東日本大震災に学んだ夏

中学生「い」の特派員「思い新た」

城東中2年 深見 陸月さん(左) 高知国府中1年 阿部 日向子さん(右) 高知大城 早生 門限 大川小の震災地視察が高知から。高知大城 早生 門限 大川小の震災地視察が高知から。

災害は想定を超える

高知国府中1年 阿部 日向子さん(右) 高知大城 早生 門限 大川小の震災地視察が高知から。高知大城 早生 門限 大川小の震災地視察が高知から。

東日本大震災に学んだ夏

中学生「い」の特派員「思い新た」

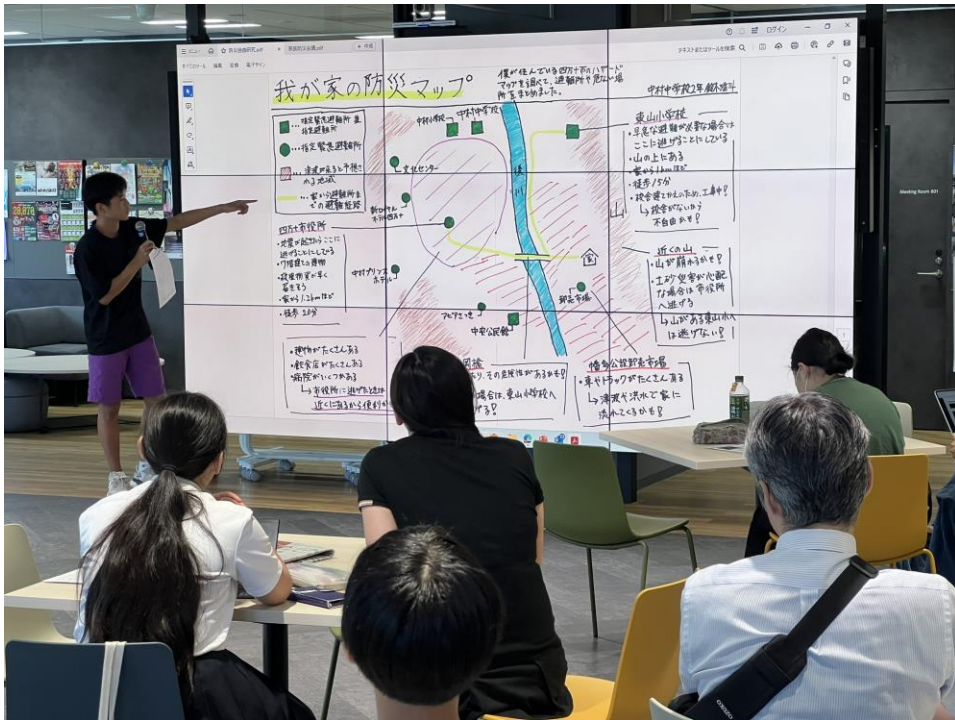
高知国府中1年 阿部 日向子さん(左) 高知大城 早生 門限 大川小の震災地視察が高知から。高知大城 早生 門限 大川小の震災地視察が高知から。

行動することの大切さ

高知国府中1年 阿部 日向子さん(左) 高知大城 早生 門限 大川小の震災地視察が高知から。高知大城 早生 門限 大川小の震災地視察が高知から。

◆事後報告会の様子(8/25)

ジュニア防災検定「家族防災会議」「防災自由研究」の発表会



東北被災地派遣後、ジュニア防災検定の課題に各自家庭で取り組んでいただきました。
夏休み最終週に課題を持ち寄り、父兄や担任の先生の前で発表会を行いました。

◆ジュニア防災検定筆記試験／応急処置を学ぶワークショップ(9/28) 掲載記事

高知新聞防災プロジェクトの「いのく」

災害時に役立つ備え学ぶ

中学生7人 応急手当でWS参加

次世代の防災リーダーを育成する高知新聞社の防災いのく特派員事業の一環で、県内の中学生7人が28日、高知市の同社で新聞スリッパづくりや応急手当などのワークショップ(W S)に参加し、災害時に役立つ備えを学んだ。

7人は8月27、4日、東日本大震災の被災地宮城県を訪問。津波に襲われた小学校などに足を運び、遺族ら語り部から当時の状況を聞いて防災意識を高めた。活動の締めくくりとなるWSでは、日本防災士会高知の岡本雅子事務局長(54)が、ライトの上にペットボトルを置いてランタンとして使う方法を説明。新聞スリッパづくりでは「ポリ袋をかぶせば皿やコップの代わりになる」などとアドバイスした。

7人はラップを体に巻いて止血したり、毛布を担架代わりに人が運んだり、身近な生活用品の活用も学習。WSに先立ち、一般財団法人防災教育推進協会が実施する「ジュニア防災検定」の筆記試験にも挑戦した。

四万十市の市立中村中2年、鈴木渚斗さん(13)は「宮城では地震の本当の怖さを感じた。学んだことを家族に伝え、今後の防災に生かしたい」と話していた。(海路佳孝)

出放題

自民党総裁に石破氏
イシバシをタタエテ
選挙を渡りたい?
傍観者—
自民党殿
(春野・さすすびるす)



毛布を担架代わりにする方法を体験する防災いのく特派員の中学生(高知新聞社)

2024年9月29日(日)
高知新聞朝刊

振り返り発表会後、教本(橙本)を参考資料に自宅学習に取り組みました。

2学期も始まり9月末に再度集合し、ジュニア防災検定の最後の課題「筆記試験」に挑戦しました。

試験後は、日本防災士会高知の防災士を講師に招き、身近な生活用品で応急処置を学ぶワークショップを開催。

ランタン作りや新聞紙を使ってのスリッパ作り、毛布を使っての搬送法等を体験しました。